

輝こうと頑張る 女性技術者たちへ

G空間EXPO2015 講演会・シンポジウム
～輝け！女性技術者～より 基調講演(2015年11月27日)

ご紹介頂きましたサンドラ・ウーと申します。会社でもサンドラ会長と呼ばれていますので、サンドラと呼んでいただければと思います。

測量・地理空間情報 女性の技術力向上委員会の設立、おめでとうございます。女性として非常に嬉しく思います。また、この機会を下さった測量業界の男性の先輩方にも大変感謝しています。私は国連国際防災戦略事務局(UNISDR)の活動で民間セクターグループ議長を務めてきました。本日は年次総会の予定でしたが、日程を変更していただき、11月の5日、6日に開催されました。そこで2年半の任期を終え議長を退任しましたので、本日はUNISDRの理事として皆さんにお話しします。

数カ月前に測量協会の瀬戸島専務理事と女性の技術力向上委員会の杉森さんから、測量業界の女性の皆さんに話をしてほしいと依頼がありました。その時は会場に男性がいないのではと心配しましたが、本日は男性が多いようです。ほっとしたと同時にもう少し女性に来てほしい、仕事で都合が悪い、自由に動ける立場にないのかとも思います。

普段は会社で仕事と業界のことしか話しません。研究成果を皆さんにお話しできる立場でもありません。また「日本人ではないから日本の女性の大変なところを理解しているのか」と思うかもしれませんが、少なくとも女性として仕事を30年ともうちょっと(笑)してきた経験、それから経営者としての経験は、参考になると思います。本日は気楽に私自身の話をし、後のディスカッションが活発になればと思います。

本日の話の流れです。まず私自身について、次に私の国連の活動経験、それから女性の活躍に関する国際航業の活動、最後に私自身の考え方・フィロソフィー、そして皆さんへの期待と希望をお話しします。

私、年齢不詳(笑)、台湾生まれです。父親が上海人で母親が台湾人ですから子供の時から異文化の中で育ってきました。学生時代を台湾・香港で過ごし、仕事ではアジアと香港で活動してきました。香港で今の日本アジアグループの山下哲生会長や他の何人かの仲間と一緒に起業して本日に至ります。2001年から04年まで日本の地場証券の社長を3年間務めた後、証券会社のグループが増えて現場の一線から退き、グループ



呉 文 緒(国際航業株式会社 代表取締役会長)
Sandra Wu, Wen-Hsiu(サンドラ ウー、ウェン ショウ)

2013年より日本アジアグループ株式会社取締役 兼 国際航業株式会社代表取締役会長に就任。会長として仕事をし、世界経済フォーラムに参画。国連国際防災戦略事務局の民間セクターグループ議長として活躍。

の立場から見ることになりました。日本の伝統的・保守的な地場証券を見て、更に今回は測量業界という日本の物凄くドメスティックな業界で非常に貴重な経験をしています。2013年までは上のホールディング(持株)会社の立場で国際航業を通じて地理空間情報業界のことを勉強し、その後は自ら会長に就任して現場と一緒に泥臭い仕事をしました。国連での出会いやこういった活動は、国際航業だけではなく日本の防災分野での長年の地道な努力と経験のおかげだと思います。

国連の仕事

国連国際防災戦略事務局(UNISDR)は防災の枠組みを設定して各国の行動をモニタリングする組織です。UNISDRの世界防災白書では、民間投資が世界の投資の7～8割を占め、この10年人命損失が減る一方で、災害が多いアジアの経済成長が著しいため経済損失は増

えたと報告されています。UNISDRは防災・減災に果たす民間の役割に注目し、2011年、初めて民間セクターグループの私たち16名を諮問委員会として集めました。「民間企業が災害・防災の認識を高め、政府も民間の重要性を認識し、兵庫行動枠組だけでなくいろいろな政策の中で民間もアクター(主体)のひとつとして提言する」ことが活動です。私の責任は民間企業の議長として意見をまとめ政策提案することですが、測量・地理空間情報業界の代表として空間情報の利用と解析・分析の重要性についてもまた機会がある度に伝えています。

2011年に防災の国際会合の総会で初めて登壇し、3.11の民間の経験をビクビクしながら話しました。震災での民間企業の対応、特に測量業界が翌日の朝9時から飛行機を飛ばし航空写真を撮ったことは非常に驚かれました。政府代表から「民間企業はこんなことができるの?」という声がありました。

2012年にインドネシアのジョクジャカルタで開かれたアジアの防災会議では、日本の災害協定を紹介しました。すぐ反応できるように事前に準備しておくことが重要という我々の提言が、宣言に盛り込まれました。

2013年のジュネーブのグローバル会議で、2011年から2年経って日本は復興にどう取り組むか官民連携の事例として、アジアから私と奥山仙台市長が仙台市のエコタウンを紹介しました。この時にUNISDRと共同で14の業界から一つずつ14の事例を詳しく紹介した事例集を作りました。こういう所は途上国でもできるといった点も記載され、非常に好評でした。欧米の政府代表が「手引き・ハンドブックとして使える。我々の国でも作りたい」と言ってくれました。

2015年3月の世界防災会議で私は民間企業の代表として、民間ができることを話しました。9月のSDGs(持続可能な開発目標)サミットでは、民間における防災や、防災と経済開発と気候変動の関連に着目した取り組みの重要性について紹介しました。会議では、国土地理院の推薦で、地球観測とリスク削減のテクノロジーが何に使えるか・どう利用するかという討論にも参加しました。ロボットや地球観測など違う分野の参加者に、日本では実際に企業が地理空間情報技術を使って防災に取り組んでいることを認識していただけたと思います。女性の私が出席したことで「日本は女性も頑張っているイメージがついた」と後で聞きました。

仙台行動枠組には、地理空間情報について関連データの収集・分析・管理・活用が重要と明記されました。測量・地理空間情報業界の代表として嬉しくて涙が出そうなくらいでした。今まではリスクとかITとか言っていましたが、ここまで明確に記載されたことはありませんでした。重要なのは、民間企業がドナーとして参加するのではなく、責任を持って地域の一員と

して参加すると同時に、会社として一つのビジネスにしないと、民間の防災の取り組みをよりイノベティブにできないということです。そういった認識を条文に入れられたことが非常に重要な成果だと思います。仙台行動枠組には33回も「民間企業」と入っています。

この国連の活動により今年国土交通省から功労者として感謝状をいただきました。私個人ではなく業界の皆さんの努力があって認めていただけたと思います。また、技術者ではなく業界の経験も浅い私が、業界の一員になれたように思いました。

女性の活躍について

国際航業では今年の9月に3年目・3回目の女性の会議を実施しました。私は2010年から11・12年と、ダボスで開催された世界経済フォーラムのウーマンミーティングに参加しました。私の世代では女性を忘れて頑張てやっていくことが基本で、同じ世代は日本、アジアだけでなく欧米も一緒だと感じました。でも参加者にインスパイアされ「昔と今は時代が違う」「何ができるか分からない時にも何かしなければならない」「私も自分の立場を活用し何ができるかまず行動してみよう」と2013年の8月に女性社員交流会としてスタートしました。ただの飲み会ではなく、テーマを持ってみんなで話す会です。女性社員がキャリアを継続させるためには何ができる・どう乗り越えるのか話をしました。良かったのは、参加者が後ろ向きではなく文句を言いながらも何かしていこう・考えよう・と話し合って進展していったことです。

2年目は第1回女性ネットワーク会議としてより多くの社員が参加しました。テーマも更に一歩踏み込み、国際航業が成長するために何ができるか、自分が仕事を続けていきたい時に何ができるか/何をしてほしいか/何が必要か、を議論しました。会社は現場のディスカッションの提案や提言を参考にして人事制度を変えます。正直に言うと、制度を変えるのは簡単ですが、職場の雰囲気とかメンタリティを変えるのはそう簡単ではありません。でも続けることが大事なのです。

3年目の今年は、職場の環境とキャリア、働き方、特に出産・介護や職場復帰をテーマにディスカッションしました。今年は男性の上長も参加しました。午前中の講演を一緒に聴き、午後は女性だけでディスカッションしました。議論の結果、改善は女性だけではできない、基本的には全社で取り組まなければならない、上司も部下も含め包括的に全員参加でやらないと問題解決できないと分かりました。来年は上長だけではなく男性も一緒にディスカッションできる環境にしたいと思っています。

今日は女性のことを紹介しました。性別・年齢・国籍・専門性、そういった多様性が重要だと思っています。国際航業では女性の会以外にも、若手・中堅・ベテラン・外国人の社員といったネットワーク会議を定期的に行っています。女性の会の事務局には人事の専門家も、ずっと技術畑できて担当になった人もいます。女性を活躍させる、輝こうという言葉も好きですが、輝くためだけではないのです。女性が仕事をしていくインフラを会社が作っていく。大事なのは会社がインフラと環境を変えていく・改善していく、必要ならどんどん変えていくこと。一つ一つ地道に行っていきたいと思っています。

私の考え方

この機会に私の考え方を紹介します。サンドラがどういう人かもっと理解していただけたらと思います。いくつか今、強く思っていることをお話しします。

まず、自分の目標を持っています。20代はひたすら勉強で何でも吸収しましたが、30歳を目前に何をすればいいのかと思った時に中国の五カ年計画を知りました。以来、五カ年計画をたてています。だんだん目標は、有形から無形に、努力が必要で、結果と評価が見えづらいものになってきました。私の人生は中国の論語、孔子の影響が大きい。「十有五にして学に志す」「三十にして立つ」「四十にして惑わず」「五十にして天命を知る」と。今、天命を知っているかということ自分でも分からないですが。

次に自分の価値についてです。よく社員から「どうしたら自分を評価してもらえるのか」と聞かれます。私も同じように感じてきました。でもある時期から自分の価値を自分で知り、自分の価値を自分で作らなければならないと気づきました。自分の価値を作って努力し、自分を評価して気づき、更に成長し続ける。正直言って私もまだ途中で。

そして自分のスタイル・人生設計です。ライフ全体の中に仕事、家庭、趣味などがあり、成長段階によって違います。私も五年計画ごとに変わっています。うまく自分の生活の中で、一体の、角がない状態にする知恵も必要です。ないものを求めるよりあるものをいかに幸せに感じるかが大事だと思います。ライフは量より質、quality of lifeが非常に重要だと思います。自分は年の功で徐々にできつつありますが、まだまだだと思います。

そして、経営者として。経営は生まれつきの素質が必要と言われますが、私は学ぶことも大事だと思います。現場で、上司や部下から、学校に行って学ぶことも大事。欧米にはビジネススクールがたくさんあります。私はまだまだ現役という人たちも学校に行き経営を学ぶことが非常に役立つと思います。私はMBAに行けなかったことが心残りでしたが、2008年にやっとハーバードのAMPに行くことができました。そこで学んだことが、人生に大きな影響を与えています。

経営者には倫理観や道徳観、情操が非常に重要だと思います。これらが無いと人間としての判断基準を間違ってしまう。私はこういったバランスが非常に重要だと思います。そして健康な心身。冷静なクリアな頭で判断できるベストの状況・コンディションにあることが非常に大事。毎日メンテナンスをして使うのは一瞬。防災と全く同じです。ハーバードの欧米の同級生たちは毎日ジムに通っていた。私はその時は通っていませんでしたが、今は週に3~4回は通うようにしています。ハーバードの参加者160名全員が切れ者で、業界や分野の上に行くほど、余程の天才でもなければそんなに差は出ないと思いました。差が出ない時に最後に勝つのは、ずっと倒れないで最後までやれる人。それには体力が必要だとつくづく感じました。ですから、経営者として正しい判断・行動に、技術、倫理観、情操、そして体力、健康な心身、一つ欠けても駄目だと思います。

そして女性として。女性にはやはり美しさ、外見の



美しさと内面の美しさが必要です。誤解しないでほしいのは、外見の美しさとは、おしゃれをして高いブランド物を身につけ派手な格好をすることではなく、清潔感があって人と接する時に好感を持たれることです。外見の美しさだけでは絶対にダメで、内面的な美しさをどうやって磨いていくかが非常に重要です。

香港やシンガポールでは女性であることを意識せずに普通にプロとして活躍できる。今年の世界経済フォーラムのジェンダーギャップレポートで日本は140か国中101位、先進国では最下位でした。女性ということを時々忘れなければならない。まずビジネスの世界で女性も同じようにできることを見せてから、ルールを変えるか、よりよい提言をすることが黄金ルールだと私は思います。

ただし、女性であることを意識することも必要だと思います。よく女性は守りが強いと言われます。強い分野をもっと伸ばして活用して、不得意な分野を意識して克服すれば女性も攻めることができます。でも男性とは違う攻め方で、女性の特徴を活かしていく。女性のマネジメントスタイル・女性特有の感性で仕事に取り組めばよいのです。

特に参加者の女性にシェアしたいのが、“Be yourself, be brave, be happy, be positive.”。自分が社会や会社で何かしなければならぬとか、いいんです。気楽に自分のままでいいです。大事なことはhappyで楽しく仕事すること、そしてpositiveに考えること。私も泣きたいこと、もうダメだなと思うこともいっぱいありました。後ろ向きの考え方で見るとどんどん悪くなっていくだけで、positiveに考えると物事はいい方向に変わっていきます。勇気を出す必要があると思います。私は、私が私がというタイプではないですが、会社や何かの代表として会合に出ると、一番前や真ん中に行きます。遠慮してはいけません。自分から手を挙げて私がやりますという勇気も必要です。「この人がまた？」と思われても克服する。

私の期待

女性技術者のみなさん、“Be professional.”プロ・専門家でいてください。ここに人たちは技術者で、そのために会社、この業界に入って仕事をしていますから、プロ意識を絶対に忘れてはいけません。その分野をもっと極めるか、もっと広い領域を勉強するかはみなさんの判断です。「うちには女性社員のロールモデルが無いからイメージできない」と言われます。私自身もその段階ごとに会った人たちに刺激されました。女性のロールモデルが周りにいなくても教科書などで「ああそういう生き方、仕事のやり方は素

敵だな、凄いな」と思えば自分のロールモデルにすればいいのです。皆さんには、自身がロールモデルになるように頑張ってください。大変ですけど自分の使命だと思ってほしい。ほかの人の、会社の中の、業界の中の、日本の中のロールモデル。将来は世界に向け、日本にはジェンダーギャップは無いというロールモデルになっていただけたら非常に嬉しく思います。そして技術者ではない女性たち、みなさんもそれぞれの分野のプロです。ですからそれぞれの立場・専門分野でプロ意識を持って頑張ってくださいと思います。同じようにロールモデルを自分で作ってください。

たくさんの男性の参加者にも、期待をこめてメッセージを送ります。女性の部下・同僚がいて、国際航業には女性の上司もいます。これが会社というソーシャルな関わり。家には娘や女性の兄弟、母親がいます。女性の部下・同僚・上司、娘・姉・妹・母親との付き合い方をもう一度考えていただきたいと思います。その付き合い方、共同生活、共に働くことが重要です。以前、取締役役に「このポジションは女性を採用したほうがいい」「この仕事は女性のほうが得意ですよ」と薦めたところ、Noとは言わないけれど表情はNo。聞くと「女性の扱い方が分からない」。でも「私と話できてるじゃない？」と言うと、本人も気づいて思いつきがその瞬間に無くなりました。

最後に、女性の技術力向上委員会には、意見交換の場をつくり、みんなでこの業界をプロモートしていく、普及させていく、女性が働きやすい環境にしていくことを、是非していただきたいと思います。

やるなら「目標を立てて」やりましょう。目標は大きく立てて、もう引くことができないくらい、1年2年で失敗してフェードアウトすることが絶対無いように、大きい目標・志を立ててやってください。この委員会が将来、ケーススタディとして取り上げられるようになってください。これからは日本に、政府に、女性の働く環境やいろんな制度の政策提言ができるようにしてください。業界の女性の声をまとめて建設的な意見を提言していくことを期待したい。意見を言うのは誰でもできる。自分の声を届けるためには、自分がコミットメントしなければならない。そうして初めて自分の言いたいことを聞いてもらえると思います。この委員会を通じて、参加しているみなさん、応援して下さる男性のみなさん、みんなで成長していきましょう。他の業界の方の「測量といった業界は(体質が)古いですね」といった概念を変えさせるよう、我々の業界がまず行動して変えていきましょう。世界でも最先端の技術の業界になっていくように我々と一緒に頑張っていきましょう。本日は最後までご清聴ありがとうございました。